

分科会の記録 第3分科会 教育環境整備に関する課題

【提言2 研究主題】

「ふるさとを愛し 未来を切り拓く たくましい児童生徒の育成を目指した魅力ある学校づくり」

～協働的な学びの推進を目指し 地域や学校をつなぐ副校長・教頭の役割～

【提言者】唐津地区教頭会 唐津市立七山中学校 野崎 愛子

【協議の柱】

児童生徒が多様な他者と協働的な学びを行う際、地域と学校、学校と学校が育てたい子供像を同じベクトルで共有し、活動するために、副校長・教頭はどうかかわっていけばよいのか。

【協議内容】

- ・異動等により毎年職員が入れ替わるため、いつも共通理解をし、現状を共有しながら進めた。研修の一つとして周知をした。
- ・令和5年度は1年目の職員が教頭の役割を広く捉えていた。実践するにはさらに絞る必要があったため、協働的な学びを「地域と学校」に限定した。その先に子供同士の協働的な学び等があると考える。
- ・学校と地域との付けたい力の捉え方が異なる場合もある。例えば、市の環境課は調査活動、学校は自然愛護という場合に、その差を埋める必要がある。事前に学校側の付けたい力を説明して理解を促し、すり合わせを行った。
- ・地域によって町づくり推進センター、地域コーディネーターなどが存在する。地域の実情を知らない職員が赴任したときや職員と地域の関係がまだ薄いときなどに、大きな力となってくれた。
- ・協働的な学びのデータストックは、あったらとても便利そうだが、作るのは大変だと思う。更新していくことも大切である。
- ・窓口や担当等の一覧は行事の精選にも役に立つし引継ぎもしやすい。市町の共有フォルダにあげておくと、学校間の情報共有もできる。カリキュラムとのつながりを考えると深みが増す。

【指導助言】東部教育事務所 指導主任 八島 重綱 氏

- ・協働的な学びにおいて大切なことは、①目的を共有した取組 ②持続可能な仕組み ③当事者意識の高まりである。これらを意識した取組が必要であり、今回の取組は的を射ている。活動の目的を明確にして地域と教職員で共有することは、協働的な学びを推進するために必要であり、地域と学校がお互いの目的をすり合わせて子供のために行う活動をするのが大切である。
 - ・データストックの作成で常に修正や見直しができ、持続可能な仕組みが出来上がる。地域、職員、子供の当事者意識も高まっていく。その上、活動の目的がはっきりする、教職員間の共有が容易になる、見通しがもてる、常にアップデートができるなどの利点がある。さらに、アップデートは活動の精選にもつながり、副校長・教頭として協働的な学びを把握することができ、仕事の割り振り指示が容易になる。
 - ・副校長・教頭の実践における動きは、次のとおりである。
 - ① 活動の目的を担当者と打合せをし、学校としての方針や目的を伝えること
 - ② 地域と担当者とのつながりの連絡をすること、要望を伝えること
 - ③ 担当者と振り返りをする
- 振り返り、データストックに修正を入れることで、よりよいものが出来上がる。